

# 豊総男女共同参画推進懇話会活動報告

**令和6年6月7日に、第3回の本懇話会で現地調査を実施しました。**

豊川用水の始点である大野頭首工（新城市大野）からスタートし、豊川市三上町にある杉本あき理事の畑をゴールとして、ほ場に水が届くまでの道のりを調査しました。

**大野頭首工**では、宇連川の水が堰上げされ、豊川用水の幹線水路へと流入する様子を確認しました。次に、**西部幹線水管橋**に移動し、蒲郡市方面に延びる西部幹線水路とその併設水路が豊川を横断する構造を見学しました。

次に、豊川市千両町地内にある**幹線分水工**に移動し、幹線水路から支線水路が分岐する様子を確認しました。ここから、日吉原支線という、豊川市当古町をはじめとする17の町に配水している支線が始まります。

その後、**樽井揚水機場**（豊川市樽井町地内）に移動し、用水が支線水路からファームポンドに流入し、さらにポンプで加圧されながら送水される設備を見学しました。この揚水機場の上屋は、昭和42年建設以降、耐震対策などが施されておらず、特にこの年代に建てられた上屋の多くは、未対策状態であることが課題として挙げられています。その後、その周辺にある**制水弁工**まで徒歩で移動し、制水弁の蓋を開けて、止水・通水操作といった、土地改良区職員の業務を体験しました。その後、日吉原支線の**三上揚水機場**に立ち寄り、最後に、今回のゴール、杉本あき理事の畑に到着しました。給水栓を開けると、勢いよく放水するところが確認できました。



## 会員の感想

これだけ大規模な設備を使って、末端まで水を行き渡らせているということに驚きました。想像以上に大変なことがわかりました。

多くの人たちの力によって、水が出ていることを改めて確認して、ありがたさと偉大さを感じました。農家の人たちにも、水の大切さをアナウンスしたいと思いました。

知っているようで知らないことばかりで、大変勉強になりました。豊川用水を利用している多くの方にも、このような経験をしてもらいたいと思いました。

私たち農家にとって、水は無くてはならないものなので、水資源機構、土地改良区の職員の苦労を垣間見ることができて、ありがたく感じました。

ダムからの途中にもいくつか構造物があって、管理に多くの人が携わっているのにも、びっくりしました。最後に、私の畑に来ることができて、大変勉強になりました。

豊川用水の始まりから末端までを見ることが出来て、すごく勉強になりました。今後も、農家の方に水を配るために、勉強していきたいと改めて思いました。



前フォルクスワーゲングループ  
ジャパン(株) 監査役  
菊地 啓一



愛知県東三河農林水産事務所  
農業改良普及課 主任専門員  
河野 真砂子



豊総理事  
渡辺 泰弘



豊総理事  
山内 祐子



豊総理事  
杉本 あき



豊総主事  
林 華子

## 功刀会長の感想と講評



豊総総括監事  
功刀 由紀子

現場を見てきて、日本の技術力に感心しました。今回の現地調査では、豊川用水を支える設備や技術を学ぶことができました。今後土地改良区の在り方を考える際に、今回も含めた本懇話会の活動成果を、どのように反映させることができるか改めて考えるよい機会になりました。

土地改良区の役員として男女の別なく、現場での課題に加え豊川用水の設備や管理運営に関する知識を持って、費用対効果の良い農業の継続を常に考える必要を感じています。

